

令和6年度 第6回学校運営協議会議事録

日 時	令和7年1月27日(水) 14:00~15:00
開催場所	下野市立南河内第二中学校 会議室
参加者	<p>〔学校運協議会委員〕</p> <p>おおもり ゆきこ かねこ ゆき こそぎ まりこ さかくら つかさ はやし こういち 大森 由貴子 金子 友紀 小杉 満理子 坂倉 司 林 宏一</p> <p>やまだ ちあき たざわ こういち なかざと あつし 山田 千秋 田澤 孝一 中里 篤</p> <p>〔地域学校協働活動推進員〕</p> <p>うえの やすひさ 上野 保久</p> <p>〔事務局〕</p> <p>たかやま やすこ 高山 靖子</p> <p style="text-align: right;">(10名)</p>
議 題	<p>1 学校の教育活動等の評価(学校評価)について</p> <p>2 情報交換</p>
議 事	<p>【学校長あいさつ】</p> <p>田 澤 ・年末から市内各校でインフルエンザやコロナが流行り、学級閉鎖や学年閉鎖がありました。本校は年末の最後の週に少し増えましたが、冬休み明けは一人、二人程度で、今のところは落ち着いています。3年生も感染症の影響で入試に行けなかったという生徒はいませんでした。30日に特色選抜の出願がありまして、県立入試もいよいよスタートするという状況です。2年生は、2月11・12日にスキー学習があり、事前の学習に取り組んでいるところです。下見に行かれた学年の先生の話では、今年は雪にも恵まれ、全面滑走可能ということでした。1年生は、キャリア教育の一環で、「職業人に学ぶ」を実施します。5つの講座に分かれ、地域の方をお招きし、職業についての話を聞くという活動です。3年生については、卒業まで1か月半ぐらいですので、良い思い出をつかって卒業できるよう、学校全体で取り組んでいるところです。</p> <p>小 杉 ・今後いろいろな面で地域の方の協力が必要な場面が出てくると思いますが、子どもたちのために役に立ちたいという方が、この地域には多いと思います。登下校の危険性を感じる事件なども最近多いですが、子どもたちが安全で安心して生活できるような環境をつくっていくためにも、地域の方へ声かけし、協力を得られるようにしていきたいです。</p>

高 山

【学校の教育活動等の評価（学校評価）について】

・以下の資料に基づいて、教頭より学校評価についての説明がありました。

R6生徒アンケートに対する考察

○ 全体的には27項目中、A評価とB評価を合わせた肯定的評価が90%を上回る項目は17項目で昨年度より1項目減ったがほぼ同様の結果だった。全項目の平均としては、88.0%（昨年度から-1.6%）の肯定的な回答を得た。

また、A評価のみに着目すると60%を上回る項目は15項目で、一昨年度から5項目増えた昨年度と同数だった。

○ 項目別に見ると「14 悩みや相談がある時、先生方はよく聞いてくれる」「19 安全に生活している」「21 自分の学習や生活の状況に応じた評価をされている」「22 いじめのない学校になるよう心がけている」「23 先生方とコミュニケーションがとれている」「25 Classroom やホームページ等から必要な情報を得ている」「26 保護者や地域の方と協力して活動している」の7項目で、A評価とB評価を合わせた肯定的評価が、この3カ年で最高の高評価となった。

特に「1 学校生活が充実している 94.7%」「4 友達の良さを認め協力して学習に取り組んでいる 95.1%」「6 思いやりをもって生活している 93.0%」「10 友達と仲良く生活している 96.7%」「17 行事に積極的に取り組んでいる 94.7%」「21 学習や生活の状況に応じた評価をされている 94.3%」「22 いじめのない学校になるよう心がけている 96.7%」「23 先生方とコミュニケーションがとれている 92.6%」と、いずれも高い結果となっている。これは、生徒が生徒同士、また対教師ともに良好な人間関係の中で 心理的に安定した状態で前向きに学校生活を送れていることの表れと言える。

しかし、「2 授業の内容がよく分かる 91.4%」であるのに対して、「3 計画的に家庭で学習している 64.2%」「5 授業の振り返りをしっかり行っている 67.9%」と低くなっており、家庭における復習や自主的な学習への取組が課題と言える。

○ 学年ごとに見ると、学年間の比較で大きな差が見られるのが、「3 家庭学習」である。3年生は肯定的評価が79.3%と、50%台の1・2年生より20～25%以上高かった。また、「18 自分の将来の職業や進路についてよく考えている」も、3年生は88.5%と、60%台の1・2年生より20～28%高かった。入試を控えた3年生と1・2年生とでは差があるのは当然であり、学年に応じて適切に進路指導を行ってきた結果とも言える。今後も、生徒自身が進路選択を自己決定できるよう学年の段階に合ったキャリア教育の充実を図っていく必要がある。

R6 保護者アンケートに対する考察

- 全体的には27項目中、A評価とB評価を合わせた肯定的評価が80%を上回る項目は17項目で、昨年度より1項目増えた。70%に満たない項目は7項目で昨年度と同数だった。全項目の平均としては、79.7%（昨年度から-1.3%）の肯定的な回答を得ることができた。

その中で、A評価のみに着目すると、27項目中13項目で昨年度を上回る結果となっている。はっきりと「そう思う」と回答する数が増えており、さらに、無回答率も昨年度から11項目で減少し、全体で1.1%減少した。学校の教育活動の取組をお子様の姿から評価をしていただくことへの周知が図られてきたと考えられる。

- 項目別に見ると「6 思いやりをもって生活している」「7 時と場に応じて挨拶をしている」「10 友達と仲良く生活している」「11 登校時刻やきまりを守っている」「16 部活動に前向きに取り組んでいる」「17 行事に熱心に取り組んでいる」「19 安全に生活している」「22 いじめのない学校になるよう心がけている」「25 学校は必要な情報提供を行っている」の9項目で、90%を超える高い評価となり、90%超えの項目は昨年度から1項目増えた。また、そのうち7項目で3か年中最高の評価となっている。

このことから、子ども達は生活面では思いやりをもって、友達と仲良く、健康的に安全面に気をつけ、ルールを守って前向きに学校生活を送っていると感じている保護者が多いことがわかる。また、「23 お子さんは先生方とうまくコミュニケーションがとれている」の肯定的評価は昨年度から4.9%上がって84.8%となっていることから、生徒と教職員のかかわりについても肯定的に評価されている。

また、「25 必要な情報提供」は、昨年度から7.5%上がって96.7%と最も高い評価となった。各種たよりや保護者宛通知をメール配信することで、確実に必要な情報が保護者に伝わっていることがわかる。

一方、「3 計画的に家庭学習に取り組んでいる」「5 振り返りをもとに学習に取り組んでいる」「13 本を読んでいる」「14 職員やスクールカウンセラーは悩みに適切に応じている」「15 進んで運動している」の項目では、肯定的評価が下がっている。

「14 職員やスクールカウンセラーは悩みに適切に応じている」は無回答が最も多く、スクールカウンセラー等への相談利用のない保護者が判断できないと回答した数が多かった。無回答数を除くと80%が肯定的評価となっており、良好な評価となっている。

以上より、生徒が自分の学習状況や定着度を意識しながら学習を進めていくことや、家庭学習への取組に課題があると保護者も感じていることがわかる。

R6 学校評価のまとめ

今年度は、学校評価の実施方法を変更して3年目となった。保護者への質問紙の配布をやめ、生徒に貸与しているタブレット端末からの回答とし、生徒の実施方法と同様にすることで、保護者のWeb上での回答もスムーズに行えたと思われる。回答率も、今年度は、生徒、保護者ともに97.2%で、昨年度より少し上がった。

評価項目は27項目で、そのうちの13項目は、二中学区の小学校と共通の評価項目で実施した。経年変化を見るために、昨年度と同じ内容の評価項目とした。

「教職員」「生徒」「保護者」三者のそれぞれの評価の内容を項目ごとに揃えたことで、比較がしやすく、それぞれのとらえ方の違いを知ることができた。

教職員や生徒は、取組の過程や意欲を重視し努力したことを自己評価しているのに対して、保護者は結果を評価していることが多いので、教職員や生徒の評価のほうが高くなる傾向にあった。これは毎年のことである。保護者の期待値が生徒の自己評価より高いことが分かる。保護者には、直接学校での様子を全て見ていただいているわけではないので、回答しにくい項目もあると思われるが、生徒の成長の姿から学校の教育活動の成果を評価をしていただくことについて、ご理解いただくよう、一文添えて評価を実施した。「判断できない」の選択率は、昨年度に比べ、若干減少した。

学校生活について保護者が見えていないところもあるので、学校の教育活動についての情報発信や生徒の成長の様子の伝達を今後も丁寧に行っていききたい。

唯一、生徒より保護者の評価が高い項目が「25 メール配信やHPでの情報提供」だったが、昨年度までに比べ生徒と保護者との差は少なくなった。今年度は、各種便りや通知のデータ化を進め、生徒のタブレットへの送信を積極的に行い、確実に生徒に情報が伝わるような仕組みを整え活用してきた効果が見られたと考えられる。

保護者からの意見や要望については、謙虚に受け止め、すぐに改善できるもの、少しずつ改善していくもの、改善は難しく保護者の理解を得るよう努力するものに分類し、職員会議等で検討し改善を図っていききたい。

今年度の学校評価の結果から、重点的に取り組んできた教育活動は、成果となって表れる事がわかった。今後も保護者・学校運営協議会委員の方々のご意見を真摯に受け止め、地域に根ざした本校ならではの教育活動を展開できるように、工夫改善を図っていききたい。

林 高 山	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者は、子どものタブレットからアンケートに回答するのですか。 ・そうしていただくようにしています。「すぐ〜」でQRコードを送って回答していただくアンケートもありますが、一家庭で複数の方が登録していることもあるので、不都合が生じます。また、記名式でどのお子さんに対しての回答か分かるようにしており、二人いる場合は、それぞれのタブレットで回答していただいています。お子さまの使っているタブレットの状態を、親に確認してもらえるとという利点もあります。
大 森 高 山 大 森	<ul style="list-style-type: none"> ・記名式ですと抵抗感のある保護者もいるという話も聞きましたが…。 ・回答をもとに生徒一人一人に個別の対応もできるので、記名式にしています。 ・回答の内容をお子さまの評価に使うわけではない、という一文を添えていただければ、保護者としては安心するかと思います。
林	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の回答率は90%以上ということですが、タブレットを使えないという親はいないのでしょうか。
高 山	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に生徒用のアンケートを実施しており、その後家に帰って、同じタブレットで親に回答してもらっていますので、やり方が分からないという家庭はないと思います。また、ネット環境も事前に確認し、WiFiの貸し出しも行っています。
小 杉 高 山	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語ができない保護者など、言語的な問題はないのですか。 ・日本語指導が必要な生徒もいますが、その保護者からの回答もいただいています。タブレットで困るという意見は、今のところありません。
大 森 高 山 林	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校も同じやり方ですか。 ・今年は、祇園小も緑小も同じやり方だと思います。 ・南河小中は、どうなのでしょう。
高 山 田 澤	<ul style="list-style-type: none"> ・南河小中に関しては、分かりません。 ・働き方改革ということで、国や市が推奨しているやり方でもあります。集計が自動的に出ますので、紙で集計していたときに比べれば、教職員の仕事の削減につながっています。ほとんどの学校は、このやり方で実施していると思います。
金 子	<ul style="list-style-type: none"> ・回答期間が長くて、ゆっくり検討する時間があったので良かったです。また、QRコードを読み取ってスマホで回答するより、子どものタブレットの方が文字が大きくて、回答しやすかったと思います。
上 野 大 森	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに聞きながら行えるので、質問に対する理解も深まると思います。 ・自由記述のところでは、枠が小さかったせいか、コメントが上手く入らなかったことも以前あったような気がしましたが、今はどうでしょうか。
小 杉 山 田	<ul style="list-style-type: none"> ・使った人からしか出ない意見だと思いますので、確認していただければと思います。 ・質問項目が多いですが、それだけいろいろな角度から子どもたちの実態をとらえていて、子どもたちのことをよく知りたいという思いが伝わってきました。

小 杉	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に肯定的な意見が多いのは、学校に対して良い印象を持っているからだと思います。家庭学習に関しては、本人の自覚次第のところもありますので、親は言うことはできてもやらせることは難しいと思います。学校は、勉強だけでなく、人間関係をつくるというのが大きな役割の一つなので、学校に来て友だちと楽しく過ごすということがとても大切なことだと思います。
高 山	<ul style="list-style-type: none"> ・2番のように「授業の内容が分かりますか」という質問に対して、「分からない」という回答が多い場合は、問題だと思います。今回は「あまり思わない」「まったく思わない」という生徒が0ではないので、そのような生徒に対しては、個別に対応していく必要があります。他の項目に関しても、先生方には、丁寧な対応をお願いしています。
金 子	<ul style="list-style-type: none"> ・この前の教育相談では、先生がよく話を聞いてくれたと話していました。自分のことを理解してくれていると感じたようでした。
小 杉	<ul style="list-style-type: none"> ・先生と話しやすいというのは、いい関係ができているということで、とてもいいことだと思います。
大 森	<ul style="list-style-type: none"> ・生活ノートからタブレットへの配信に変わったわけですが、今までの生活ノートの日記のように、子どもたちが先生に気軽に相談できるような手段はあるんですか。
田 澤	<ul style="list-style-type: none"> ・リーバーに保護者が入力する健康観察の他に、生徒が入力する「心の健康観察」という機能がありまして、二中は他の学校に先行して実施させていただいています。子どもたちは、自分のタブレットから自由に書き込むこともできるので、先生方はそれを読んで個別に対応することができます。また、相談できる先生は担任だけではなく、生徒が指名することもできます。
上 野	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の多忙感はどうですか。
田 澤	<ul style="list-style-type: none"> ・生活ノートでは、先生方は空き時間の1時間を使ってコメントを書いていたので、それに比べると軽減されていると思います。
上 野	<ul style="list-style-type: none"> ・ある小学校では先生が毎日全員の日記にコメントを書き、その先生の負担感を心配する保護者もいました。その学校では、日記は書きたい子が書いてくるようなやり方にしようと考えているということです。
小 杉	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを使って子どもたちが自分の気持ちを言えて、それを見て先生が手助けできる手段があるのはありがたいと思います。いろいろなやり方を試してみて、良かったら取り入れて、うまくいかなかったら違うやり方を考えれば良いと思います。
坂 倉	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に出された学校の目標と学校評価がどのようにリンクしているのかが分かりづらいかなと思います。年度当初の目標がどのくらい達成できたかを評価した方がいいのではないかと思います。

高 山	・学校評価の一覧表を見ていただくと分かりますが、学校経営方針の4つの柱に沿って質問項目を立てています。
坂 倉	・質問項目は3年間変わっていないということで、経年変化を見取るという点では有効だと思いますが、その年の重点目標を評価することができないのは少し残念な気がします。
小 杉	・その年によって重点目標が違うと思うので、今年度の重点目標となる質問項目にはマークをつけて一言添えれば、学校評価とリンクされると思います。
田 澤	・今提示されている学校評価は、学校生活をほぼ網羅しています。結果を見て今年度落ち込んでいる部分は課題としてとらえ、毎年少しずつ変えながら学校経営の方針を立てています。ご指摘いただいた重点目標の評価に関しては、来年度検討していきたいと思います。
高 山	・貴重なご意見やご感想をありがとうございます。今後に生かしていきたいと思ます。



